



# 久松

2021～2022年度

第1号  
NO.508

LIONS CLUBS INTERNATIONAL  
DISTRICT 336-B 7R-1Z  
TOTTORI KYUSHO LIONS CLUB

地区アクティビティ・スローガン 『Something New』  
地区ガバナー・スローガン 『誇りと自信 そして前へ』  
鳥取久松LC会長スローガン 『つなぐ つながる 奉仕の笑顔』

## 地区ガバナー就任ご挨拶



336-B地区ガバナー L 平山 智雄

このたび、2021-22年度地区ガバナーに就任いたしました、3R-1Z津山鶴山クラブ所属の平山智雄と申します。ガバナーと聞いて思い浮かぶような、完全無欠な人間ではございませんが、1年間一生懸命に頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

地区アクティビティスローガンは、Something New サムシング・ニュー「何か新しい事を」といたしました。これは、既成概念にとらわれず、いままでとはまた違った視点・考え方も排除することなく、もっと頭を柔らかくして、新しいチャレンジを試みようということです。アクティビティのみならず、クラブ運営・新会員の発掘等、あらゆる分野に及ぶと思います。もちろん、何でもかんでも「変えればいい」というものではありません。各クラブの素晴らしい伝統、地元と結びついた立派なアクティビティは、続けることに大きな意義があります。しかしちょっとした変化が積み重なれば、大きな変化となるかもしれません。

前年度、地区会員数はマイナス145人、マイナス5.3%でした。すぐ成果があるとは思いませんが、各クラブ、地区全体の雰囲気・積

極性の変化により、もっと楽しいライオンズクラブにしていきたいと思います。きっと結果はついてくると信じています。

ガバナーズローガンは、「誇りと自信 そして前へ」といたしました。

ライオンズクラブが誕生して100年がすぎ、その間多くの先輩たちが世界中で素晴らしいアクティビティをしてくださいました。現在の私たちも、私も含めていつも「何かいいアクティビティはないか」と常に注意を払い、積極的にたくさんの方のアクティビティを行っています。地元のみならず、LCIFを通じて世界の人々にも奉仕の輪をひろげています。このことについて、もっともっと誇りをもつべきです。さらに現在の私たちだけではなく、後を継ぐこれから入会してくる未来の新会員たちもまた、素晴らしいアクティビティを続けてくれるでしょう。このことにもっと自信をもつべきです。

そしてその「誇りと自信」を胸に、どんどん前へむかって、明るく楽しく、ライオンズライフを楽しんで行きましょう。

「楽しくなければ、ライオンズじゃない。」

## 第一副地区ガバナー就任のご挨拶

第一副地区ガバナー L 西尾 慎一 (鳥取 LC所属)



コロナ禍の終息が未だ見えないばかりか、変異種による更なる感染拡大が懸念される中で新年度を迎えることとなりました。

この1年、第二副地区ガバナー、レガシー特別委員会委員長として地区の更なる発展を目指し、決意も新たに取組むつもりでしたが、感染症という前例の無い事態が広がるなか思うように活動が出来なかったばかりか、検討項目として挙げておりました課題解決を持ち越す事となり、何か不完全燃焼のまま任期を終えることとなりました。

そのような中、先般行われた代議員投票において、2021-22年度の第一副地区ガバナーとして、本当に多くの方の信任を得る事ができました。これは、偏に私に対する「未来を見据えて地区発展に頑張れ」というメッセージだと感じています。

このような厳しい環境下に於いても、健康と安全を最大限確保しつつ、私たちの存在意義である地域社会のニーズに貢献することを第一義として行動しなければいけないと思うのですが、振り返ってみれば、私たちのスタンスが本来あるべき姿に向いていない、何かギクシャクとしたものを感じています。このことは、地区

発展の阻害要因となりかねないばかりか、せっかく「We Serve」のモットーの下に集まった人々の気持ちを淋しくするだけだと思いますし、このような不協和音は取り除かなくてははいけません。

今後、気持ちも新たに、ライオンズに対するモチベーションを高め、牽いては地区が活性化し発展するためには如何すればよいか、緊密にコミュニケーションをとり、課題を見つけ、それらを地道に解決しつつ、楽しいクラブライフが送れるよう、会員全員で力を合わせてワンチームで進んで行ける組織を目指し努力する所存でございます。併せて2021-2022年度は地区のLCIF100キャンペーンのコーディネーターを仰せつかる予定です。このキャンペーンは、コロナ禍の影響もあり、期間が1年間延長され、2022年6月30日までとなっております。当地区に於けるこのキャンペーンの目標達成率は低く、このことから次年度は何とか挽回を図るべく、キャンペーンの主旨に賛同いただきご協力いただけるよう啓発をしていきたいと考えておりますのでご支援・ご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

## 7R-リジョン・チェアパーソン就任のご挨拶

7R-RC L 山名 立洋 (鳥取 LC所属)



親愛なるライオンズクラブメンバーの皆様こんにちは。この度7リジョンのリジョン・チェア・パーソンに就任することになりました鳥取ライオンズクラブの山名立洋でございます。

皆様がよくご存じのとおり、ライオンズクラブは、世の中への奉仕活動を主な目的とする、世界最大の奉仕団体です。奉仕活動を通じて人格を高め、地域の和合や人々の連帯を促進する役割も担っています。いわば人々の生

活に必要な不可欠な活動とも言えます。そして私たちライオンズクラブの活動のほとんどは人と接し、汗を流すことで目的を果たすことが出来るものです。

ところが、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大により、人と接することが極端に制限されるようになってまいりました。例えば鳥取ライオンズクラブが行なっている子どもたちとの卓球大会や芋掘り体験などのアクティビティは、時

には肌が触れ合うこともある行動を伴いますので、まったく実施することが出来ません。このように、多くのライオンズクラブにおかれても、奉仕活動の中止を余儀なくされているのではないのでしょうか。

一方世の中の進歩に伴って、物事によってはリモートで行なわれることもあります。現にキャビネットの会議には、オンラインで参加される方も多くなってきました。それならば奉仕活動もリモートでと言いたいところですが、少なくとも先ほど挙げた卓球大会や芋掘り大会は、すぐには実現不可能です。出来るとしてもコンピュータを使ったピンポンやゲームとしての芋掘りくらいでしょう。

これでは子どもたちと触れ合ったことには、なりません。ただ、叡智を集めればオンライン

でも子どもたちとの触れ合いという目的を達成できるものがあるかも知れません。その辺りは、研究を今後任せましょう。

今までと同様の活動は難しいからという理由だけで、手をこまねいて収束を持っているのではライオンズクラブの意味がありません。例えばワクチン接種にボランティアで協力できる活動はないだろうかとか、これからの季節に密にならないような屋外で、市民が楽しめる催しは出来ないだろうかと各クラブで検討し、実現することは可能です。

あらゆる団体が活動を自粛している中で、ライオンズクラブが先陣を切って今出来る活動をやるのが求められているのではないと感じる今日この頃です。

## 7R-1Zゾーン・チェアパーソン就任のご挨拶

7R-1Z・ZC L 広岩 勝彦（鳥取中央LC所属）



新年度もコロナウイルス感染の状況は変わらず、各クラブの活動も制限され何かと心痛のことと思います。しかし今後の活動においては制約の中でもしっかり準備をしていき、明るく楽しく会員同士知恵を出し合い行動していきましょう。

ゾーンチェアパーソンの責任としてたくさんの項目がありますがその中でも、会員増強・指導力育成には積極的に取り組み支援しなさいとあります。各クラブ同じ課題を抱えていると思います、いかに魅力のあるライオンズクラブになれるか一年間協議検討していきたくと思います。今年度、平山ガバナーの地区スローガン「誇りと自信 そして前へ」ライオンズ会員であることを誇りに思い自信を持ちなさいと言っておられ

ます。残念ながら誇り・自信にほど遠く、60代半ばを迎えても迷走し続けています。今期良い機会だと思いライオニズム精神を少しは学んでいきたいと思っています。地区アクティビティスローガン「Something New」何か新しいことを。コロナの影響でアクティビティが制限される中新しい形の地域貢献・社会奉仕を考えていけたらと思います。一つ提案ですが合同アクティビティとして「合同会報」を1回6クラブに働きかけ実施したいと思っています。よろしく願いいたします。

一年間キャビネットとの橋渡しとして明るく楽しいライオンズクラブを発信できるよう努めさせていただきます、ご協力よろしく願いいたします。

## 会長就任あいさつ

会長 L 宮部 文雄



この度、鳥取久松ライオンズクラブの会長を拜命致しました。就任後、早3ヶ月が過ぎようとしています。しかしながら昨年年明けからの新型コロナウイルスの感染状況は、ワクチン接種にもかかわらず好転の兆しが見通せない状態にあります。

この期間、当クラブは対外活動はもとより会員が集う機会さえ半減しています。このような活動停止は、クラブの魅力や求心力を失い、新規会員の獲得困難や退会につながると危惧しています。

今年度の会長スローガンを『つなぐ つながる 奉仕の笑顔』とさせて頂きましたが、このような

コロナ禍にあって、会員一人ひとりが『今、できることはなにか?』、足元の小さいことからどのようにつながって行くことが可能なのか、しっかりと考えることが求められています。基本理念である『奉仕をする』活動をしないのであれば、集う理由もなくなってしまいます。コロナウイルスは、私たちに変容を迫っているのかもしれませんが。前向きに捉えれば、新しい取り組みを創造するチャンスではないでしょうか。

皆さんと「想い」を共有しながら、1年間楽しく活動できればと思います。最後になりましたが、力強いご協力とご指導をお願いして就任の挨拶とさせて頂きます。

## 第一副会長就任あいさつ

第一副会長 L 上田 雅稔



第一副会長の大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。まだコロナ禍の最中ですが、ようやく出口が見えつつあります。出口の先に広がる新しい世界に期待と不安が混在してい

ますが、来たるべき躍進への準備を開始する一年になれば、と思います。よろしくお願い申し上げます。

## 第二副会長就任あいさつ

第二副会長 L 橋本 和憲



第二副会長に就任して、コロナ禍の影響もあり活動の鎮静化を感じています。現状において出来ることを一つずつ実施していくことが大切です。50周年事業については、現状を認識した上での準備を進めていますが全員参加の事業なので委員の一人として早く結論を出し

たいと思います。50年を経過した今、会員の増強・クラブの活性化等についても、新会長を中心として皆さんの意見を聞きながら楽しいクラブとして発展出来るよう、知恵を出し合って取り組んでいきたいと思っています。

## 幹事就任あいさつ



幹事 L 国森 洋

この度、「鳥取久松ライオンズクラブ」幹事を務めさせていただくことになりました国森でございます。入会より3年あまりの若輩者で、まだまだライオンズクラブの一員としての自覚やクラブの基本的な事を身に着けておらず不安ばかりですが、宮部会長をはじめ皆様のご指導をいただきながら、役割を全うできるよう努力したいと思っております。

昨年来のコロナ禍で多くの事業やアクティビティが中止や自粛となっています。

一方で、ワクチン接種も進み感染状況もこれまでとは少し違った世の中になるものと期待して

います。

今期は会長スローガンである『つなぐ、つながる、奉仕の笑顔』を念頭に、クラブの活動やアクティビティも徐々に元に戻しつつ、さらにバージョンアップできるよう皆様のご協力をいただきながら活動ができればと思っております。

これから一年、幹事として頑張っていく所存でございます。コロナ禍の終息が見えない状況の中、会員の皆様には何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、ご指導、ご協力、ご支援を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 会計就任あいさつ



会計 L 田中 利明

今年度、会計を仰せつかることになりました。会計は町内会でやっていくくらいで、入会してまだ日が浅く、戸惑うばかりですが、どうか宜しくお願いします。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の影響で、鳥取久松ライオンズクラブの活動も大きく制限されています。今後ワクチン接種が進んでも、どうなっていくか不安が尽きません。そのような中ではありますが、出来る活動を行い、会計としてしっかりと運営していきたいと思っております。

話は変わりますが、コロナ禍で閉塞感漂う

この夏、東京オリンピック・パラリンピックでアスリートの皆さんからたくさんの感動や元気をもらいました。特に、鳥取県出身の入江聖奈選手の金メダルは、その人柄と相まって日本中を明るくしてくれました。本当にうれしい限りです。入江選手はカエルが大好きだそうです。私はボクシングでカエルと言えば、カエル跳びパンチの輪島功一を思い浮かべてしまいます。(笑)

一日も早くコロナが収束して、皆さんと笑顔でお酒を酌み交わすことができることを待ち望んでいます。



# 都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト



**鳥取県出身の入江聖奈選手が見事金メダル**  
この金メダルは、鳥取久松LCが取り組んだ「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」で回収した小型家電から生まれた「金」が含まれているかもしれません。

東京オリンピック・パラリンピックは7月23日にオリンピックの開会式に始まり、9月5日パラリンピックの閉会式で30日間にわたる世紀のイベントは無事閉幕しました。新型コロナ緊急事態宣言下で国内から賛否両論が上がる中での開催となりましたが、オリンピックでは、金メダル27個、銀メダル14個、銅メダル17個、パラリンピックでは、金メダル13個、銀メダル15個、銅メダル23個、併せて109個のメダルを獲得しました。ほとんどの会場で無観客試合となりましたが、オリンピック選手の活躍はコロナ渦での閉塞した私たちの気持ちに勇気と感動を与えてくれました。

「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」は、東京2020オリンピック、パラリンピックでアスリートに授与される入賞メダルを使用済み携帯電話等の小型家電から金属を集めて製作するもので、環境省が主管して、2017年4月から2019年3月まで2年間実施されました。国内全市町村数1,746のうち、9割以上の1,621自治体が参加、



鳥取久松LCも鳥取市と連携して取り組みました。回収量は全国参加自治体78,985トン、NTTドコモによる携帯電話の回収約621万台。最終的な確保金属量

金:約32kg 銀:約3,500kg 銅:約2,200kg

オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅のメダルに必要な金属量を100%回収し、約5,000個のメダルが完成しました。

鳥取久松LCの取り組みは2017年度メインアクティビティとして鳥取市・リファーレンいなばの協力をいただき、チラシ・ポスターを配布。2018年6月3日・11月18日の2日間リファーレンいなばで開催されたイベントにリサイクル家電回収コーナーを設置し多くの市民の協力をいただき、1,270kgの回収ができました。

この取り組みの主管庁である環境省は、メダルプロジェクトの成果をレガシーとして活用し、自治体、認定事業者等と連携した「アフターメダルプロジェクト」を実施。スペシャルオリンピックと連携した回収や、自治体等で開催されるスポーツ大会等のメダル作成の原材料に利用。ショッピングモール、小売店、交通機関、郵便局等での回収促進を図ることとしています。

※2017年度メインアクティビティ「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」は取り組みが評価され2018～2019年度「ガバナーズアワード環境保全部門 ガバナーズ大賞」を受賞しました。



## あ と が き

新型コロナ感染症の終息が見えない中での新年度がスタートしました。クラブ会報の編集の責任者となりましたが、例会やアクティビティの中止等会報編集に大変苦勞しています。今回は、東京オリンピック・パラリンピックで我がクラブが取り組んだ「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」を特集しました。メダリストが首にかけているメダルを見て、私もオリンピックパラリンピックに参加したのだと一人で自己満足に浸っています。

(MC委員会委員長 L上杉 榮一)

- 発 行 鳥取久松ライオンズクラブ
- 事 務 局 鳥取市川端2丁目125 鳥取県不動産会館3F  
☎(0857)23-6830 Fax(0857)23-4908
- E - m a i l kyusholc@hal.ne.jp
- 会 長 宮部 文雄
- 幹 事 国森 洋
- MC委員会委員長 上杉 榮一
- 例 会 日 第2・第4木曜日 12:20～13:20
- 例 会 場 白兔会館  
鳥取市末広温泉町556 ☎(0857)23-1201